

頑張る

農業法人

綾部市篠田町で地域の少子高齢化が進む中、任意組織であった「篠営会(しんえいかい)」は、しっかりと地域農業を持続していくために2012年11月に、株式会社として農業法人化した。

地元のみならず地域外の遊休農地も集積して農地保全や農作業受託に取り組む他、今後、若手の担い手育成や、加工販売などの6次産業化も視野に入れており、地域活性化の拠点としても期待されている。

同地区は綾部市北西部に位置し、川や小山のある自然豊かな農村で農家は22戸。1978年に約22畝の圃場(ほじょう)整備が完了し、当時は農業も盛んだった。その後、徐々に高齢化

が進んで後継者も減少したことから、農地保全に向け有志6人が2007年に任意組織「篠営会」を設立。農作業受託や約4畝の遊休農地を預かり、米を中心に京都大納言小豆などを栽培してきた。

さらに、遊休農地が増える中で地域ぐるみで農業を持続させるためには、法人化が不可欠と判断。

J A京都にのくにや関係機関の支援の下、賛同した5人が中心となり、12年11月に同組織を株式会社化し、J Aにも正組合員として加入した。

役員は、代表取締役の相根謹一さん(62)と3人の取締役。パート事務員1人と、農繁期に3、4人がパートタイマーとして農業生産に取り組

綾部市篠田町

(株)篠営会



ハウスで長ダイコンを栽培する法人の相根謹一代表取締役(中)と山添敏弘取締役(左)、相根勝義取締役

農地保全、受託に力

担い手育成や6次化も視野

に積極的に取り組み、経営の多角化も進めている。

今後、農地集積を進め25畝規模まで拡大し、J A指導のもと冬の水田を活用して「花菜」などの栽培を行い、地元女性の雇用につなげていくことも検討している。

最近では近隣集落からも「農地を預かってほしい」との声が多数寄せられ、地域農業を持続するための拠点としての期待も高まっている。

相根代表取締役は「資本金が少ないので経営を軌道にのせるのは時間がかかるが、地域農業の持続・発展のために精いっぱい努力していきたい。6次産業化へのチャレンジや、新規就農者の雇用などで、次世代の若い担い手育成につなげていきたい」と今後の熱い思いを語る。

▽法人所在地 綾部市篠田町八重坂5の1 電話 0773(49)0005。

む。現在、農地12畝を集積し、同J Aの指導で特別栽培米5畝、転作の小麦

2畝、特産小豆2畝、酒米2畝、飼料米1畝などを栽培。ハウスでブランド産品「万願寺甘とう」

他、80羽の採卵養鶏にも取り組む。販売はJ A出荷の他、J A直売所「彩菜館」でも行っている。近郊地域の農作業受託